

## 福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年6月15日現在  
(専技情報より抜粋)

### ◇早生水稲（夢つくし、コヒカリ）◇

田植え後、4月の低温の影響で初期生育はやや遅れていましたが、5月からの高温多照により回復。現在、中干し時期となっています。スクミリンゴガイによる食害が多いです。また、ウンカ類の飛来時期が平年より3週間程度早く、ほ場内においてもセジロウンカの発生が確認されています。4月下旬植えの穂肥施用時期は6月25～30日頃で、出穂期は平年並みの7月中旬の見込みです。

中干しの強さは田面が黒乾する程度としましょう。穂肥は、出穂前20～18日頃（幼穂長2～5mm）に、葉色3.5程度を基準施肥量として施用しましょう。

### ◇普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇

5月中旬～6月上旬植えは、田植え後、高温多照で経過したため、活着が良く生育は順調です。麦収穫後の田植えも始まり、平坦地の「夢つくし」は6月上中旬、「元気つくし」は6月中下旬、「ヒノヒカリ」は6月下旬が最盛期となる見込みです。

5月植えで雑草が多い場合には、中後期除草対策を実施しましょう。大豆後は、基肥を減肥しましょう。田植え後は浅水管理を徹底して、活着促進と初期生育の確保を図りましょう。スクミリンゴガイ、ウンカ類への防除対策を徹底しましょう。

### ◇麦類◇

小麦の収穫は、6月10日までに終了しました。収量は、穂数が平年並～やや多く、出穂後の多照により登熟も良好で、平年より多い（多収年の前年よりやや少ない）見込みです。品質は、一部で倒伏がみられたが、登熟が良く、適期収穫も進んだことから、良い見込みです。

ほ場への有機物還元のため、麦わらはすき込みましょう。調製のふるい目は、小麦2.2mmとしましょう。

### ◇イチゴ◇

元年度産の出荷は、5月下旬でほぼ終了しました。平年に比べ、4月の出荷量は3番果房のバラツキや4月の低温の影響で少なかったです。5月は気温の上昇により4番果房の出荷量が増加しましたが、総出荷量は前年よりやや減の10,358tとなりました。平均単価は過去最高の1,514円/kgとなり、販売金額は概ね前年並となりました。親株からの子苗の発生は、4月の低温や乾燥の影響でやや遅れたましたが、採苗作業は5月中旬から開始されています。ハダニ類、うどんこ病の発生がみられます。

採苗は、6月中旬までに終了させましょう。また、ハダニ類、アブラムシ類、炭疽病、うどんこ病の防除対策を徹底しましょう。

### ◇温州ミカン◇

露地栽培の一次生理落果（5月下旬）は並み～やや多く、結実は、産地・園地ではばらつきがみられますが、全体では極早生は前年並み、早生は並み～やや多く、普通はやや多いです。病害虫の発生は、カメムシが早い時期から散見されています。

今後、6月中下旬の二次生理落果の落果状況を確認し、適正着果量の確保に努めましょう。

着果状況を確認し、着果が多い園地では、摘果を徹底しましょう。梅雨期の排水対策、マルチの被覆準備を行いましょう。黒点病、カイガラムシ・ハダニ・カメムシ対策を徹底しましょう。

#### ◇キウイフルーツ◇

「ヘイワード」の開花盛期は5月5～6半旬で前年並み～3日遅く、各産地とも開花期間が長かったです。結実は例年よりばらつきが多く、全体では並み～やや少ないです。果実肥大も全体では並み～やや小です。早生系品種を中心にキウイかいよう病、5月中旬の開花の園地では花腐れ細菌病が発生しています。害虫はカメムシが散見されています。

着果状況を確認し、着果が多い園地では摘果の徹底、少ない園地では着果確保、新梢管理を徹底しましょう。梅雨期の排水対策、果実軟腐病等の病害虫対策および梅雨明け後の土壤乾燥対策を徹底しましょう。

#### ◇トルコギキョウ◇

冬春出しは終了しました。1～5月の出荷量は4月の緊急事態宣言後に下位等級品の出荷を控えた産地が多く、大きく減少しました。一方、5月の販売単価は「母の日」需要で回復、1～5月の平均単価は平年並み(99%)となりました。6～8月出しは順調に生育しており、6月下旬から出荷量が増加する見込みです。

6～8月出しは適宜換気を行い、過剰なかん水を控え、茎葉の軟弱化を防ぎましょう。アザミウマ類の発生が多いため、対策を徹底しましょう。古い花や葉先枯れした葉には灰色かび病が発生しやすいので対策を徹底しましょう。

#### ◇茶◇

一番茶の出荷は5月末日で終了しました。二番茶の摘採のピークは、平坦地では6月8日頃、山間地では6月15日頃の見込みです。

二番茶は、適期の摘採に努めましょう。ハダニ類、ヨコバイ類の発生が多いので対策を徹底しましょう。併せて、炭疽病策を徹底しましょう。

#### ◇畜産（肉用牛）◇

5月の和牛枝肉単価は、連休前の量販店の需要が増加したこと及び政府の和牛肉に対する緊急対策が示されたことで4月までの下落傾向からやや上昇（対前月+166円/kg）しました。交雑種主体の省令価格は、平成26年8月以来となる1,300円/kgを切る水準となりました。

暑熱ストレスを軽減するため、送風や消毒等を徹底して疾病予防や健康管理を徹底しましょう。また、ビタミン、ミネラルの増給を行いましょう。